

8 教授組織の前提条件

学級担任による教育の長所のうえに職能的分化をとり入れ、集大成としての教育効果を期待することになるので、従来の教師観の改変をはかるとともに、子どもの学習態度について、共通理解と、その徹底をはかっておく必要がある。

(1) 教師の意識改善

現在の教育活動は、学級単位の教科指導はもちろんのこと、生徒指導全般にわたって、学級担任教師に一任されている。その結果は程度の差はあるにしても孤立的・独善的にならざるを得ない。このようなあり方を改め、学級担任教師であるまえに学年（学年団）教師であるという意識に立ち、学級担任による教育の長所を残し

ながら、協力体制により、教科（教科内領域）を分担し、組織活動の構成員として、その役割に満足感をもち、集大成としての教育効果を高めるよう考え方を改めることである。子どもの個性は握についても、現在の子どものおかれている社会情勢から、学級担任一教師にまかせることはむりであり、多面的な観察・指導が要求される。そのため生徒指導の責務を学年（学年団）チームにおき、具体的な情報により協議し、対策・指導に当ることとする。学級担任教師は、担任学級の子どもについて分担任務を負うことになる。

次に学年・学級の役割の一例をあげることにする。

第8表 学年・学級の役割

機 能	役 割	
	学 年	学 級
1 単元指導計画 目標の具体化 個別化 段階的な評価	1 教材構成の基本的構想 2 基調案（骨組み）の作成 3 単元指導計画の共同作成	1 資料の収集とその教材化 2 役割分担内容の検討 3 担当教科の指導計画の吟味
2 単位集団の再編成 個別化・集団化 機器の導入 施設の活用	1 内容・教授過程に応じた個別化・集団化 2 複数授業による教育機器の導入 3 具体的な場の活用計画	1 主体的学習意欲の喚起 2 自覚による個性の伸長
3 教師のチーム・ワーク 専門性の研修 分業・協業 多面的個性は握	1 教科、あるいは教科内領域の分業・協業 2 生徒指導の具体計画の作成 3 生徒指導の協議・指導	1 担当教科の教授 2 学習一般の基本的態度の育成 3 日常生活の観察・指導